

教育センターの令和6年度の取組について

2024.5.29

第1回仙台市GIGAスクール推進協議会



仙台市教育委員会

令和6年度 教育センターの取組

1 学校情報化研究委員会

「Society5.0の時代に求められる学びと学校の創造を目指して」

- ①教育データ利活用部会
- ②情報リテラシー部会

2 授業づくり訪問・研修

3 生成AI研修

4 プログラミング教材の導入とカリキュラム編成の検討

5 「Webサイト活用研修」 (悉皆研修)

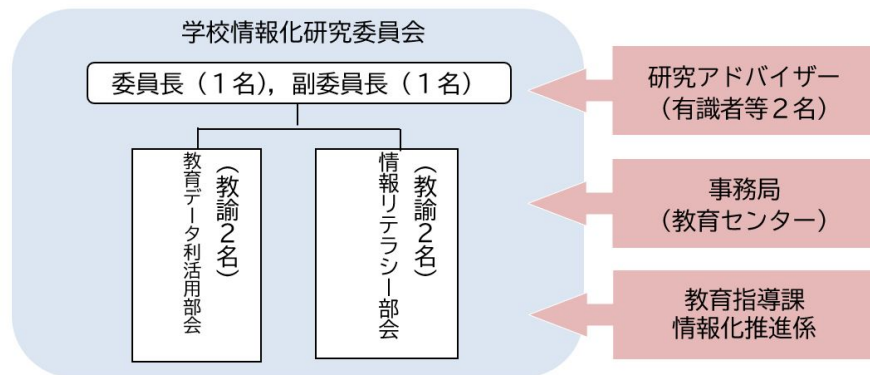
令和6年度 教育センターの取組 学校情報化研究委員会

研究テーマ：「Society5.0の時代に求められる学びと学校の創造を目指して」

1 「学校情報化研究委員会」の目的

GIGAスクール構想、教育DX推進の趣旨と仙台市立学校の現状を踏まえ、教育データの利活用、情報リテラシーに係る実践研究を進める

2 研究組織図



【委員長・副委員長】各部会の調整・全体統括
【研究アドバイザー】研究委員会への助言、研究への支援

3 研究アドバイザー

- ❖ 教育データ利活用部会
東北学院大学 稲垣 忠 教授
- ❖ 情報リテラシー部会
宮城教育大学 岡本恭介 准教授

令和6年度 教育センターの取組 学校情報化研究委員会

4 研究内容

教育データ利活用部会

研究テーマ	教育データを利活用した指導と評価の一体化を目指して
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルの学習データ、児童生徒の自己評価型の質問紙調査データを指導と評価に生かす方法を検討する。 Google Workspace for Educationとロイロノートで蓄積したスタディログを整理し、共有し、指導と評価に生かす方法を検討する。

情報リテラシー部会

研究テーマ	生成AIを活用した新しい学びの推進を目指して
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で生成AI Geminiの活用方法を検討し、授業実践を行う。 思考力、創造力を高めさせる工夫。生成AIを使用すれば簡単に答えを出してもらえるような従来型の学習課題の在り方やテスト方法を見直す方法の検討。

※本研究で取り組む
生成AIの活用段階

- ①生成AI自体を学ぶ段階
- ②使い方を学ぶ段階
- ③各教科等の学びにおいて積極的に用いる段階
- ④日常使いする段階

令和6年度 教育センターの取組 授業づくり訪問・研修

「授業づくり訪問」

1. 目的

2年間ですべての市立学校、幼稚園を訪問し、授業力の向上及び校内研究の推進を支援する。※令和6年度訪問実施校数 92校(小学校59、中学校33)

2. 訪問の視点

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
（個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して）
- ・ 各教科等の指導における1人1台端末の効果的な活用
※各教員が閲覧できるよう好事例の学習指導案をC4th書庫に蓄積

「研修」

1. 目的

GIGAスクール推進に係る教員のICT活用指導力を高める。

2. 研修内容

- ・ ICT活用研修（情報活用能力を育成する授業デザイン、1人1台端末を効果的に活用する授業デザイン等）
- ・ プログラミング教育研修 ・ STEAM教育研修
- ・ GIGAスクール端末活用研修（令和6年度訪問予定校数28校）
- ・ Webサイト活用研修（情報モラル・セキュリティに関する内容を含む）

令和6年度 教育センターの取組 生成AI研修

ね ら い：生成AIの仕組みを理解し、その活用における情報リテラシー、
生成AIを各教科の授業で活用する場面について演習を通して学ぶ

対象・定員：教諭、常勤講師（小・中・特）40名

実施日時	場所	内容	育成する力
12月中 14：30 ～ 16：45	仙台市 教育セ ンター	【講義・演習】 生成AIについての理解、情報リテラシー 等 【講義・演習】 各教科における生成AI活用の可能性について 等	授業構想 情報活用 情報活用能力 危機管理・安全管理 (情報管理 等)

令和6年度 教育センターの取組 プログラミング教材の導入とカリキュラム編成の検討

1 目的

小学校プログラミング教育の手引き，「教育の情報化に関する手引」の趣旨と仙台市立学校の現状を踏まえ、プログラミング教育に係る実践研究を進める

2 概要

児童生徒が学ぶことができるプログラミング教材（※1）を小中学校に1校ずつ導入し、総合的な学習の時間におけるプログラミングの学習効果についての検証を行うと共に、今後のカリキュラム編成の可能性について模索する

3 活動回数

年間5回程度(必要に応じて、各部会で設定)

※1) グローバルスタンダードプログラミング学習 文部科学省プログラミング学習対応
総合的な学習を用いた小中系統立てたプログラミング学習教材

令和6年度 教育センターの取組 プログラミング教材の導入とカリキュラム編成の検討

視力検査表 教師用指導案

視力検査表
12 steps

キャラクターカード 教師用指導案

キャラクターカード
13 steps

シンプルインフォグラフィック 教師用指導案

インフォグラフィック
14 steps

年表 教師用指導案

課題が
いくつ
も設定
されて
いる

視力検査表
2 of 12 steps

新しいタブで開く

模範解答

指示

<h1>を追加する

まず、<h1>を使って最初の文字を追加しましょう。この行には一番大きな文字が入ります。

構文を学ぶ：

html <h1>

```
index.html style.css
```

```
8 <body>
```

```
9
```

```
10 <h1>E</h1>
```

```
11
```

```
12 </body>
```

```
<html>
```

E

HTMLコードを入力していく

プレビューでは「E」と表示される

児童生徒は1人1台端末を活用し、
オンライン上で課題に取り組む

令和6年度 教育センターの取組「Webサイト活用研修」(悉皆研修)

仙台市教育センターHPリニューアル



仙台版GIGAスクールステップアップ 研修体系図

教員のICT活用指導力チェックでセルフチェックをしましょう。
1 (※クリックすると分析シートが開きます)

	オープン	スタンダード	アドバンス
A 教材研究・指導の準備・評価・授業などにICTを活用する能力	～10歳 重点項目 A1 A4	10歳～14歳 重点項目 A1 A2	14歳～16歳
B 授業にICTを活用して指導する能力	～10歳 重点項目 B1 B3	10歳～14歳 重点項目 B1 B4	14歳～16歳
C 児童生徒のICT活用を指導する能力	～10歳 重点項目 C1 C2	10歳～14歳 重点項目 C3 C4	14歳～16歳
D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	～10歳 重点項目 D1 D4	10歳～14歳 重点項目 D1 D3	14歳～16歳
* ICT活用を推進するためのマネジメント力	～4歳	～6歳 重点項目 *2	～8歳 重点項目 *1

	児童生徒	教員	研修者
研修番号【0304】 ICT活用指導力(第1回、第2回、第3回、第4回)	研修番号【0304】 ICT活用指導力(第1回、第2回、第3回、第4回)	研修番号【0304】 ICT活用指導力(第1回、第2回、第3回、第4回)	研修番号【0304】 ICT活用指導力(第1回、第2回、第3回、第4回)
研修番号【0200】～【0201】 各教科授業づくり研修	研修番号【0200】～【0201】 各教科授業づくり研修	研修番号【0200】～【0201】 各教科授業づくり研修	研修番号【0200】～【0201】 各教科授業づくり研修
研修番号【4003】 GIGAスクール推進部員養成研修	研修番号【4003】 GIGAスクール推進部員養成研修	研修番号【4003】 GIGAスクール推進部員養成研修	研修番号【4003】 GIGAスクール推進部員養成研修
研修番号【4000】 ICT活用指導力(第1回、第2回、第3回、第4回)	研修番号【4000】 ICT活用指導力(第1回、第2回、第3回、第4回)	研修番号【4000】 ICT活用指導力(第1回、第2回、第3回、第4回)	研修番号【4000】 ICT活用指導力(第1回、第2回、第3回、第4回)

「児童生徒が自分の学びを広げる ICT 活用」

- chromebookの活用: 教師の指示の中で使用する → 学習課題・活動に応じて児童・生徒の判断で活用 → 児童・生徒が個人の意思で自由に使える
- 個別最適な学びの推進 (指導の個別化): デジタル教材・動画等の効果的な活用 → デジタルドリルのデータ活用 → 様々な教育データの活用
- 協働的な学びの推進: 資料の配付・回収 (Classroom・ロイコ資料箱等) → 資料・コメントをつけて返送 など → 自作資料の白紙共有、他者参照、途中参照、共同編集
- 情報活用能力の育成: 仙台版学習目標リストレベル1達成 (小学校下学年) → 仙台版学習目標リストレベル2達成 (小学校上学年) → 仙台版学習目標リストレベル3達成 (中学校)

※教員のICT活用指導力チェックリストは教育センターホームページ「センター研修2024」内にもリンクがあります。

仙台市立学校HPは全て今年度中にGoogleサイトへ移行

教育情報の積極的かつ効率的な情報発信の先駆けとして

閲覧合計25352件 (5/14時点)

- ❖ 授業づくり・校内研究支援の情報を充実（「ICT活用研修」を全教科のページに表示、受講推奨）
- ❖ →仙台版GIGAスクールステップアップ研修体系図で「児童生徒が自分の学びを広げる ICT活用」のイメージを視覚化、関連する研修を体系化

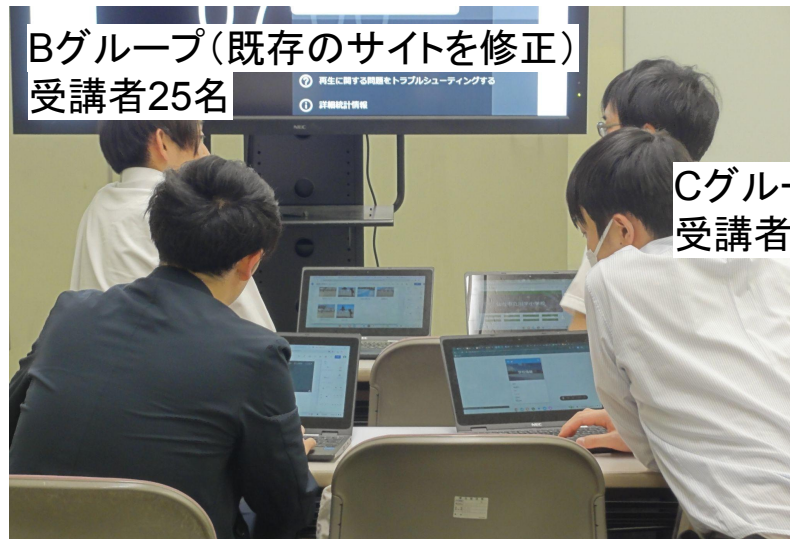
令和6年度 教育センターの取組「Webサイト活用研修」(悉皆研修)

教育情報の発信を積極的かつ効率的に運用するための操作スキルの向上

Aグループ(雛形ではじめから作成)
受講者161名



Bグループ(既存のサイトを修正)
受講者25名



Cグループ(操作支援)
受講者1名



講義「Google サイトへの移行と情報モラル・情報セキュリティについて」

→操作スキルに加えて**情報セキュリティについても一体的に理解できるような研修構成**

演習「(グループ別)Google サイトの作成・編集」

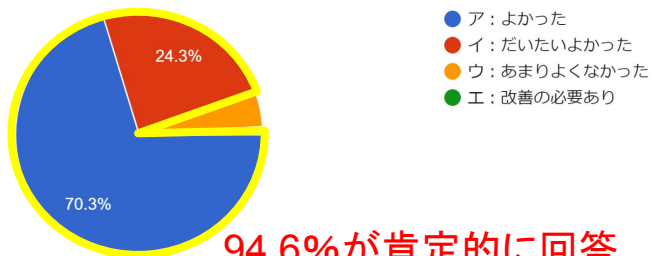
→**学校の実態に応じて**個別最適な教師の学びを確保する**新しい研修スタイル**

令和6年度 教育センターの取組「Webサイト活用研修」(悉皆研修)

教育情報の発信を積極的かつ効率的に運用するための操作スキルの向上

1 研修の内容について、あなたの考えに一番近いものを選んでください。

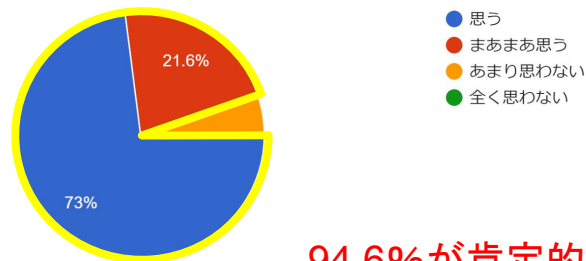
185件の回答



94.6%が肯定的に回答

3 今回の研修の学びは、求められる教員の資質能力を高めるために役立ったと思いますか。

185件の回答



94.6%が肯定的に回答

受講者の研修感想から①「共有の重要性についての再認識」

- **全教職員**がホームページ運営に関われるように共有することが重要である
- **校内研修やOJT等を通して**、ホームページ作成に関する知識やスキルを共有する必要がある

受講者の研修感想から②「今後の取り組みへの意欲」

- 情報担当以外の教員の**積極的な参加を促進**する
- **継続的な**情報共有 and サポート体制を**整備**する
ICT活用能力の向上のための**研修を継続**する